



平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立宇治支援学校 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	<p>(1) 京都府立菟道高等学校との卓球交流 宇治支援学校高等部卓球部生徒11名 菟道高等学校卓球部生徒12名</p> <p>(2) 京都府立菟道高等学校とのサッカー交流 宇治支援学校高等部球技部生徒 6名 菟道高等学校サッカー部生徒 29名</p>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他 (<input type="radio"/> 他校との交流事業) <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	高等学校と特別支援学校高等部のスポーツ交流をととして、スポーツに取り組む意欲を高めるとともに、相互理解・尊重する態度を身につける。
5 取組内容	<p>(1) 卓球交流 平成30年9月22日(土) 13:30~16:30に本校体育館で卓球交流を行った。本校生徒の司会により開会式を行った後、合同練習、車いすを使用したプレイ体験、交流試合を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>(2) サッカー交流 平成31年1月19日(土)に本校グラウンドでサッカー交流を行った。本校生徒による開会式の後、混合チームを作り合同練習をし、交流試合を行った。チーム毎に練習し、チーム対抗で試合を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div>

6主な成果	<p>(1) サッカー交流は、初めての取組であったが、生徒の期待感は大変高く、よい交流となった。力量には差があるが、ペアやグループで活動することで、それぞれの力に応じた交流ができた。準備運動、合同練習、交流試合へと時間が経つとともに交流は深まり、真剣さの中にも笑顔があふれる交流となった。</p> <p>(2) 卓球交流は、2回目の交流ということもあり、去年までの経験や先輩から聞くなどして見通しをもって参加した生徒が多かった。車いすを使用したプレイ体験を行い、体の部位の使い方をアドバイスし合うなど、相互理解が進んだ。</p> <p>(3) サッカー、卓球とも、一つのスポーツをとおして「対等な立場」で交流を共に楽しむと同時に、本校生徒に対して自然に配慮する高校生徒の姿が見られるなど、意識の変化が見られた。閉会式の生徒感想の言葉の中にも「来年もやりたい」との声が聞かれた。</p> <p>(4) 日頃かかわる機会の少ない同世代の高等学校、特別支援学校高等部生徒が、障害の有無に関係なく一つの競技をとおして「相手の良さ」を知り「互いを思いやり、尊重し合う」など、他者理解や相手を尊重する態度が随所に見られ、本事業の目標は概ね達成できたと考える。</p> <p>(5) 両校生徒で同一校区内の同じ地域に住む生徒も多く、今回のサッカーでの交流をとおして「障害の有無」を超えて互いに人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える共生社会の形成に向けて理解を進めることができた。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>(1) 特別支援学校生徒の障害特性や競技能力をもとに実施可能な活動内容を検討した。</p> <p>(2) 障害特性や競技・運動能力等特別支援学校生徒の実態、安全上の配慮事項等について高等学校指導者との情報共有に努めた。また、怪我等発生時対応について独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付の対応が可能である旨を両校で確認した。</p> <p>(3) 開会式、閉会式の司会進行や、練習の進行を両校生徒で行った。また、両校生徒でペアやグループを作り練習に共に取り組み、互いに声を掛け合えるようにした。練習試合ではグループ分けをしたり混合チームを編成したりするなど両校生徒が打ち解けやすい雰囲気作りに留意した。</p> <p>(4) サッカーは、荒天により屋外での活動ができない場合を想定し、屋内での活動内容も準備した。</p>
8主な課題等	<p>今年度はサッカー交流を新たに取組んだ。また、卓球交流は2年目の取組となった。たいへん有意義な取組みであったが、一度ではなく複数回の、系統立てた実施計画や、より交流の深まる内容の検討など、来年度早期から実施に向けた検討を進める必要がある。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>次年度以降も継続し、より深い交流へとつなげていきたい。</p>